

防災・減災活動体験フェア 防災ギャザリング2019開催される

開催日：2019年5月11日（土）
時間：9時30分～13時0分
会場：横浜市民防災センター

阪神淡路大震災の時に神奈川県内の大学生がボランティア活動で被災地にて活動を行いました。活動から戻ってきて何かをしなくてはという思いで防災ギャザリングを立ち上げ神奈川県で防災活動をしている人達も協力して1月17日前後の日に山下公園、横浜公園、かながわ県民センター等でキャンドル追悼とイベントを開催してきました。



その後、学生達は卒業して社会人になり活動が難しくなり防災活動をしている人達が引き継いで続けることになりました。

現在は防災講座と市民防災センターにて防災イベントを開催。行政との連携協力を頂きながらいろいろな機関、防災活動団体等の参加型のイベントに定着してきました。



3年前、会場の市民防災センターが工事のために1月が使えなくなり、5月に行ったところ1月の寒い時期ではなく、今後も5月に行うことはとの意見により5月に行うことになりました。

2019年は約500人の参加者があり、子供たちは、はしご車や白バイに乗ったり、ゲームを体験したりする事ができ、また参加をしたいとの声をもらいました。勿論、参加団体からも活動に参加できて良かったとも言っていました。



2020年は5月16日（土）に開催する予定です。

会員紹介 かながわ災害ボランティアバスチーム



代表：荒井一之
連絡先：borabus.info@gmail.com
070-4287-9004（木曜・日曜の19：00～21：00のみ）SMS対応は可能

会員数：36名
定例会：原則第1・3木曜日 19：30～21：00

「かながわ災害ボランティアバスチーム（略称：ボラバスチーム）」は、「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」において、ボランティアバスを運行・派遣するための実務を担当してきたボランティアグループ（ボラバスチーム）を前身とし、2014年1月に設立しました。

- ＜主な活動＞
- ★東日本大震災被災地域支援
 - 年間数便のボランティアバス運行による支援活動の実施
 - ※支援地域については「岩手県陸前高田市」「宮城県亶理郡山元町」を中心に、現地要望を踏まえて決定。
 - 陸前高田市のイベント（動く七夕、ツール・ド・三陸）支援



- 被災地物産品の神奈川県内イベントでの販売支援
- ★国内で発生した自然災害による被災地域支援
- 大規模災害が発生した際に活動前の現地調査・情報収集、ならびに被災地での復旧活動及びボラバス

運行
・KSVネット等他団体の災害ボランティアバス運行時の研修会講師、事務作業、現地活動リーダー・現地情報の収集・提供など



- ★緊急災害時に対応できる災害ボランティアの育成及びネットワーク構築
- 被災地での活動未経験の方を主な対象とした、災害ボランティア活動研修会の実施
- ボランティアバス参加費への学生補助制度導入による次世代災害ボランティアの育成
- 情報提供希望者（登録者）への被災地での活動情報（ボラバス運行・ボランティア募集等）提供

＜会員募集＞
チームの企画・運営に携る正会員（年会費1,000円）、情報を受け取って活動に参加する一般会員（会費無料）を募集しています。
各会員種別専用アドレスに氏名・登録希望メールアドレスをお送りください。
【正会員申込】 borabus.seikaiin@gmail.com
【一般会員申込】 borabus.ippankaiin@gmail.com

地震大国日本で命を守るために

世界で発生するM6以上の地震の2割が日本列島で起きています。来年は阪神・淡路大震災から25周年（1995年1月17日5時46分）です。死者6,434名、行方不明3名、負傷者43,792名、住家全壊104,906棟、住家半壊144,274棟、全半焼7,132棟。この四半世紀の間に、震度7の地震は6回（熊本地震は前震と本震）発生。2万3千名弱の命が奪われました。同期間に震度6以上の地震は32回。そして、今、首都直下地震や南海トラフ地震などが切迫しています。

阪神・淡路大震災後に行われたアンケート「大きな揺れの中でどんな行動をとったか」では、「自分の身を守るのに精一杯」が約2割、「布団をかぶった」が約3割、約4割の人は「何もできなかった」と答えています。大地震が来たら、人はその最中にはただ揺れが過ぎるのを待つしかないのかもしれませんが。だとしたら真剣に家具の転倒防止、夜の地震の備え、寝室の備えを周りに呼び掛けましょう。死亡者の約44%と、人口構成比の4倍近い割合で高齢者が亡くなっています。（広報委員：大田哲夫・田口謙吉・石田昌美・丸山善弘）



神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9階
TEL045-473-1031 FAX045-473-9272 URL http://ksvn.org



富津市へ第3便ボランティア活動のあとで



さらなる広域連携を目指して

NPO法人
神奈川災害ボランティアネットワーク

理事長 河西 英彦

災害の年代ともいわれる平成、各地の災害支援活動を体験し、多くを学びました。それは日々の弛まぬ地域活動、顔の見える共助の関係づくり、何よりも自分の身は自らが守る自助の啓発活動が重要であり、その活動を推進することがKSVNの基本姿勢です。

さらに県下、市区町村の全てが行政・社協・ボランティア団体・地域団体と連携し、地域に即した災害対策を構築することが大切です。その支援活動もおろそかにできません。

地域の防災計画を遥かに超える大災害、数十年・数百年・数千年に一度の災害が連発、多発する時代が到来しているように思えます。

予想を超える大災害時に広域連携が必須であることを実感し、都道府県から地方単位に、そして全国規模の支援体制が必要不可欠になりました。内閣府の提唱する【三者連携】行政・ボランティアセンター・NPO等の諸団体の協働です。

情報共有会議が災害時の混乱を乗り越え、効率的、効果的に復興を促進することを目指します。災害発生時に素早く開催できる情報共有会議、平素より顔の見える関係づくりが求められている。

全国ネットは重要課題ですが、頻発する災害は地域力の差が大きく復興を左右します。皮肉にも、防災減災体制の整わないところに災害が発生しているようにも思えます。

さて、神奈川県は？ 想定外を積み重ねた災害が大災害になります。

それぞれの立場でもう一度、災害対策について振り返り検証することが求められています。

KSVNでは、こうした観点から年1回、会員を超えた多くの団体・企業・個人の皆様と防災・減災について話し合う機会を設定いたします。第1回は1月に開催した昨年度のオープン会議（小此木前担当大臣をお迎え）西日本豪雨支援を中心に開催されました。

横浜駅西口地下街の防災・特に浸水対策等の専門家のお話は新たな知識となりました。

本年度は多くの団体企業等の防災活動についてお話をお聞きし連携と対策をディスカッションすることを目的に下記の要領で開催します。

【KSVN主催・防災減災大交流会】
開催日時 11月14日（木） 18：30開会
開催会場 神奈川県民センター2階ホール
開催内容 前半 各団体の防災・減災活動計画発表、後半 グループワーク 意見交換

防災減災活動と被災地支援活動のオール神奈川の牽引団体として、県下の支持と連携が克服すべき最大の課題となっています。全体会を契機として充実を図るべく全力を尽くしましょう。ご協力をお願いします。

ビッグレスキューかながわ 伊勢原にて開催される

神奈川県と伊勢原市の合同総合訓練(ビッグレスキューかながわ)が8月31日に伊勢原市総合運動公園と東海大学医学部付属病院を会場に開催されました。周辺自治体の消防や医療機関、県警、自衛隊、在日米軍などと連携強化と地域防災力の向上を目的に、都市南部を震源とするM7.3、最大震度6強の首都直下地震を想定して実施されました。関係機関、ボランティア団体等129機関、約6500人が参加し、災害発生時の初動対応や救助、救護活動などの訓練に取り組みました。メイン会場の総合運動公園グラウンドでは防災関連の展示ブースや炊出し、消火活動、倒壊した家屋や高層建物からの負傷者救出等に、最新技術を導入した、無線で起動する起重機やドローンによる情報収集とAEDを負傷者に運搬する訓練も披露された。体育館では避難所設置運営訓練や企業やボランティア団体による展示体験コーナーが設けられ、神奈川災害ボランティアネットワークでは



ボーイスカウト連盟の炊き出し

DITSを使用した情報伝達訓練とボランティアセンター設置訓練の一般ボランティア役で参加しました。

開催までの取組

開催まで2回の全体会議と3回の個別作業部会に参加し、開催に備えました。KSVネット支援室としての取り組みは、事前に独自情報訓練を実施し、訓練当日行われる4者協定による県支援センター設置運営訓練の提出資料を作成しました。



出番を待つ救助犬

訓練当日会場参加者は災害ボランティア支援センター設置運営訓練に参加し、災害情報訓練はDITSを使っての災害情報発信をメインとして県サポの支援室と現地間の連絡をMessengerビデオチャットでの双方向性の情報交換訓練を実施しました。又、KSVネット加盟団体の神奈川RBによる、アマチュア無線通信による情報訓練にも参加し、現地と県サポ支援室間のアマチュア無線通信を実施いたしました。

県サポ支援室では4者協定による災害支援センター設置運営訓練に取り組み、県サポートセンター、県



DITSを使っての災害情報訓練

社協、県共募、KSVネットの関係者8名が現地との情報交換訓練を実施し、マニュアルに沿って訓練を実施しました。



訓練開催前にKSVネットではDITSの勉強会、東海大の内田先生による講座等を開催しビッグレスキューに対して積極果敢に対応し、訓練参加へのPRを行いました。今回の「ビッグレスキューかながわ」でのKSVネットの主な参加実績は下記の通り。

総参加人数 173名、
参加団体 各地域ネット・ボーイスカウト神奈川連盟・県歩け歩け協会、神奈川RB、県支援室関係等

DITSによる参加
参加者 27名
発信地域 県内19か所から 発信数 152件 (内伊勢原地区) 95件

訓練開催会場伊勢原には、県内から遠く横須賀、葉山等早朝からバスの始発では間に合わず徒歩車での参加者もいました。当日は会場での飲み物・非常食などの支給もありましたが暑さから体力消耗等があり、工夫が必要な点も反省点としてあった。

DITSに関しては、事前の講座等を実施した関係上徐々にではあるが浸透し始めてきた。今後もDITSの取り組みを継続し、11月の津波対応訓練に繋げていきたい。



配給するボーイスカウト隊員



負傷者のトリアージ訓練



レスキューバイクのブース



KSVへの案内誘導



県サポートセンター支援室

15号台風被害の富津市へ災害ボランティアバスを派遣

神奈川災害ボランティアネットワーク(KSVN)は台風15号の強風被害で停電、断水の続く千葉県富津市へ災害支援ボランティアバスを9月21日、22日、23日、28にち、29日、10月6日、7日と3週続けて派遣しました。

21日の富津市ボラセンはまだボラセン開設5日目(17日からの開設)で、住民ニーズの把握やマッチングが不十分で、また機材や車両も不足し連休初日にかかわらずボランティアの数も少ないという感じでした。我々は団体なので金谷海浜公園の流木の撤去、清掃作業となりました。金谷地区は、富津市の中でも被害の大きかった地域で、現場に近づくにつれ、ブルーシートで覆われた屋根が目立つようになります。金谷海浜公園は、数十mの砂浜に面した公園で、台風で漂着した流木、木くずなど大量のゴミに覆われた状態でプラ、金属等のごみも混入しており、市の災害ゴミの分別ルールに従い、分別集積しました。22日・2便(33名)も引き続き金谷海浜公園の流木の撤去、清掃作業にあたり大体の片付けが終わりました。

23日(月・祝)は大勢のボランティアが来ていて富津市災害ボランティアセンターもごった返してました。23日・3便38名は事前にマッチング、調整しておいて機材も大量に神奈川から持ち込み自分達のバスですぐ現場に行く事が出来ました。この日の作業は個人宅の①屋外(家周り)の土砂の撤去、②床下の泥出し、③台風で汚れたガラス戸や雨戸の清掃で作業ごとに3班に編成、さらに屋外の土砂の撤去は玄関側と裏側の2班に分け作業に当りました。大きな庭木も何本も倒れていてそれは重機でやるので我々は家周りの土砂の撤去と「寝たり、食べ



富津市ボラバス第5便の皆さん

たりの生活空間を確保したい。」という希望で居間の床下泥出しをやりました。

心配したお天気は台風17号余波の雨も無く逆に陽もさして暑く(一人に熱中症の症状が出たりしましたが)無事、作業を終え家主さんのお礼の言葉に役にたてて良かったと思う1日でした。

ボラセンは機材が足りないので、持って行った一輪車やスコップ類のKSVN機材は貸しておくので全部、おいてきました。

帰りのアクアラインが風で通行止め、館山道も事故渋滞で富津市から逆方向の成田に出て帰って来ました。アクアラインだと横浜まで1時間30分ですが4時間かかりました。

金谷地区は、富津市の中でも被害の大きかった地域で、現場に近づくにつれ、ブルーシートで覆われた屋根が目立つようになります。現場のすぐ近くにはフェリー乗り場があり、公園に隣接するレストラン等の観光施設「金谷フィッシュ」があります。大きな建物の観光施設は屋根の一部が破損、ガラスが割れる等の大きな被害を被り、営業できない状況で「施設には多くのパートさんがおり、早く仕事を再開できるように、復旧を急いでいる」との事です。また21日には読売新聞東京支社とJ:COM千葉の取材が入りました。どうい記事になったのか、読売新聞の記事を読んでみたいですね。

